

生涯研修提供機関も

競い合いとルールと判定によって成長を

内山 充

人間は、生きている証として、常に成長発展を目指して活動している。ノーベル賞受賞やオリンピックのメダル獲得のような象徴的なもの以外にも、日常生活改善から高度の先端技術開発に至るまでの数多の実績が示すように、人間の能力は着実に成長していると考えられる。

目標に向かっての成長や発展はとどまることがないとはいえ、そこには、成長を支える因子として、「競い合い」と「ルール」と「判定」とが必ず伴っていると思う。研究成果や教育実績においても、また技術開発や産業活動でも、あるいはスポーツの記録更新の経過を見ても、その感を深くする。

薬剤師の立場を振り返ってみれば、自らの責任と義務を認識して、常に薬剤師としての仕事の上で成長を目指すために、自らの能力と適性を高めるための生涯学習は欠かせない。生涯学習の成果は、本質的には学ぶもの自身の意識と実践に掛かっているが、優れた生涯研修を提供する機関の働きも、生涯学習の成果を左右する要素として重要である。薬剤師の生涯研修の発展のために、生涯研修提供機関がいかにあるべきか、そこにも「競い合い」と「ルール」と「判定」とが正しく理解され適用されていることが必要である。

「競い合い」は、独善的な排他思想や、仲間内の馴れ合いに陥ることなく、複数の研修機関の参加による協力的競合が、切磋琢磨を生み成長を促す要因となることを意味する。既得権をもつ大きな組織が覇権主義を続ければ、全体としての進歩はなく新鮮さを失い、やがて滅びる。逆に、複数あってもお互いに競争せずに棲み分けに安住しては、その後の発展はあり得ない。「競争の原理」は生命発展の不変の原理である。世の中は否応なしに競争原理に移行しており、それでこそ健全さが保たれる。

「ルール」は、その時代における最も妥当なものでなければならないから、常にその正しさを見直すべきものであり、随時変化してもよい。2008.8.26付けコラム『目標を見誤らずに随時方策を変えて最善に近づく努力』に記したように、むしろ望ましい成長を達成するためには、理由を明確にした上でルールを変えるべきことも往々にして生じる。ルールは、すべてが法的に確立されているとは限らない。研修の実施や認定の条件等、研修機関に委ねられたルールも多数存在するが、真に研修の効率化や受講者の便宜を考えたものか、あるいは単に実施機関の利害を考えてのルールであるかが、実施機関の信頼を大きく左右することも少なくない。

「判定」は、対象はさまざまであるが、いわゆる「評価」である。ここでは生涯研修の質の評価と、受講者の習得度の評価を指す。優れた研修計画の発展と薬剤師職能の成長を支えるために大切なことは、目的を見誤らず、関係者が納得する正しい評価をすることである。生涯研修と実務活動に関する将来性のあるアイデアや人材等を失うことのないよう、適切な評価がなされなければならない。固定観念による判定や、前例、利害、人脈、など怪しげな根拠に基づく誤った評価は、大切な進歩の芽を摘むなど、大きな損失を招く恐れがある。

当薬剤師認定制度認証機構は、昨年12月の一般社団法人への移行を機として、これまでに認証を受けた研修機関の協力的競合体制の助けを借りて、質の高い薬剤師生涯研修の普及と発展という目標を見据えて、柔軟で多様性のある見地から、時代に即応した適正な判断に基づく認証事業の推進に向かって、最善の努力を続けたい。

(2009.2.2)